

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります！

逃げ遅れ
ゼロへ！

警戒レベル④で全員避難！！

～警戒レベルで避難のタイミングをお伝えします～

【警戒レベル】で避難のタイミングをお伝えします。

【警戒レベル】を用いた避難情報を発令します。

郡上市から【警戒レベル③、④】が発令された地域にお住まいの人は、速やかに避難してください。



【警戒レベル3】で、避難に時間のかかる人は避難し、そのほかの人は【警戒レベル4】となった段階で、地域みなさんで、声を掛け合って、安全・確実に避難しましょう

警戒レベルについてのQ&A

質問 防災気象情報は出ているが、避難情報が出ていないときはどうすればよいか？

▶市は、様々な情報をもとに、避難情報を発令する判断を行うことから、必ずしも防災気象情報と同じレベルの避難情報が、同時に発令されるわけではありません。

自らの命は自ら守る意識を持って、防災気象情報も参考にしながら、適切な避難行動をとってください。

水害・土砂災害について、郡上市が発令する避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報を、5段階※1に整理しました。

<避難情報等>

<防災気象情報>

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害発生情報 ※2 ※2 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令 (郡上市が発令)
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 ※3 避難指示(緊急) ※3 地域の状況に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合に発令 (郡上市が発令)
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の人、障がいのある人、乳幼児等)とその支援者 は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (郡上市が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)

【警戒レベル相当情報(例)】

警戒レベル5相当情報

氾濫発生情報
大雨特別警報 等

警戒レベル4相当情報

氾濫危険情報
土砂災害警戒情報 等

警戒レベル3相当情報

氾濫警戒情報
洪水警報 等

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

(国土交通省、気象庁、都道府県が発表)

※1 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

毎月28日は「岐阜県防災点検の日」です！

明治24年10月28日、県内において、死者約5千人の未曾有の被害をもたらした「濃尾大震災」にちなみ、岐阜県では、毎年10月28日を「岐阜県地震防災の日」と定め、毎月28日を「岐阜県防災点検の日」と定めています。毎月28日は、個人、家庭、地域、学校、職場等において、災害に備えるための点検を実施する機会ととらえ、地域防災力を高めましょう。

災害時に備えて 持出品と備蓄品を用意

災害時の避難活動や応急活動に備え、必要な資機材を準備するとともに、定期的な点検や使用方法の確認をしましょう。

非常用品は、災害時にすぐに持ち出せる「非常持出品」と「非常備蓄品」とに分けて用意しましょう。

●非常持出品

自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。

非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。できれば家族全員一つずつリュックを用意して、目に付くところに備えておきましょう。

▼リュックの内容の例

飲料水、食料品(カップめん、缶詰、ビスケット、チョココレ

トなど)、救急用品(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)、ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手、懐中電灯、衣類、下着、毛布、タオル、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器、使い捨てカイロ

●非常備蓄品

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備え、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品などを備えるようにしましょう。また、食べることは我慢できても出すこと(排泄)は我慢できないため、簡易

トイレの準備は重要です。カセットコンロがあると簡単な料理ができて便利です。

▼備蓄品の例

飲料水3日分(1人1日3リットルが目安)、非常食3日分の食糧(アルファ米、缶詰、ビスケット、板チョコ、乾パンなど)、生活用品(衣類、毛布、携帯簡易トイレ、トイレレットペーパー、ティッシュペーパー、キッチン用ラップ、アルミホイル、ゴミ袋、マツチ、ろうそく、カセットコンロなど)

※大規模災害発生時には、「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。

※飲料水とは別に、手洗いやトイレを流すための生活用水も必要です。日ごろから、水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておく、などの備えをしておきましょう。

参考：ぎふ防災ハンドブック
2018年度版
問 総務部総務課
67・1832

